

聖学院の美術

ものづくりにおけるプロセスは、手と目と脳との連動性を刺激し、子供の発育を促します。

言葉を絵に変換したり、想像上のイメージを画面に定着させたりするなど、物事を思考し、表現する力を育むことは重要だと考えます。一人一人の感性を豊かに育み、じっくりと自己理解を深めてゆきます。

作品について自由な発想を求める一方で、道具の扱い方、描き方、構図の考え方など、基本的なルールを見直します。表現の領域の幅をシンプルにまとめることで、段階的に個人が施行し、作業しやすくするためです。そこから個々の差を見出し、良さを引き出すよう指導してゆきます。また、柔軟に発想する力を育むため、「美術」という教科の枠にとらわれず、描画材料の知識や色彩の科学的な見解、その歴史など、制作工程に連動するかたちで授業をすすめてゆきます。絵画材料や表現方法の観点から社会とのつながりを考えさせ、社会性を養うためです。

自分が自分であることを認識するためには、常にその身のまわりの存在とのコミュニケーションが不可欠です。自己と他者とをつなぐためのメディアのしくみを知りながら、社会性と表現の独創性を併せ持った人間性を育んでゆきます。